

◆パナソニック：4K/60p 出力対応の回転台一体型 4K インテグレートドカメラと、大型タッチパネル式モニター搭載のリモートカメラコントローラーを開発



パナソニック株式会社は、4K/60p 出力に対応した4K インテグレートドカメラAW-UE150W（ホワイトモデル）/K（ブラックモデル）と、直観的なカメラコントロールが可能なりモートカメラコントローラーAW-RP150を開発した。ともに、2018年冬の発売を予定している。4K インテグレートドカメラAW-UE150W/Kは、3840*2160の4K/60p出力に対応し、スポーツなどの動きの激しいシーンでも高画質で滑らかな映像撮影が可能。また、光学20倍のズーム撮影と、水平75.1°の広角撮影が可能なため、広い範囲の撮影から、遠くの被写体の撮影まで、広範囲に対応することができる。映像出力は、3G-SDIやHDMI、IPに加えて、12G-SDIや光ファイバーに対応。カメラ本体のみで4K/HDのサイマル（同時）出力が可能なため、運用に合わせた出力方式を選択することができる。リモートカメラコントローラーAW-RP150は、7型タッチパネル式モニターを搭載し、メニュー選択やカメラ切り替え操作、インジケーター機能をGUI画面に集約。パネル部には使用頻度の高いボタンを配置しレイアウトを簡素化することで高い操作性を追求した。カメラのパン・チルトが可能なりモートジョイスティックには、ズームまたはフォーカスの制御が可能なりモートレバーを装備。ワンハンドで即時性の高いカメラコントロールを実現する。スタジアムやホール、イベント会場など、大規模な空間を高画質に撮影可能な4K インテグレートドカメラとリモートカメラコントローラーが、従来のリモートカメラの運用の幅を広げる。

<開発品の主な特長>

1. 4K/60p 撮影に対応、1.0型大判MOSセンサーの搭載によりノイズを抑えた高感度な撮影が可能
2. 光学20倍ズーム、水平75.1°の広角撮影が可能
3. 多彩なインターフェイス（12G-SDI、3G-SDI、HDMI、IP、光ファイバー）に対応

◆ソニー：讀賣テレビ放送株式会社より新社屋向け4K HDR 対応 第3・第4スタジオサブ・カメラシステムを受注

ソニービジネスソリューション株式会社は、讀賣テレビ放送株式会社より、新社屋向け、4K HDR 対応の制作スタジオ設備を受注した。本案件は、12G-SDIをベースに構築される関西圏初の4K ライブ制作システムとなる。新社屋は2019年8月に開局予定。今回受注したシステムは、従来と比べて入出力を大幅に拡張し、大規模4K制作を可能とする、新開発のマルチフォーマットスイッチャー『XVS-9000』を中

心に構成されている。現在の第2、第3スタジオサブにて実績のあるスイッチャープロセッサー及びコントロールパネルの二重化運用に対応し、高度な冗長機能を実現するとともに、2式の同時使用により多彩な番組制作も可能となる。また新たにソニー提唱の「SR Live for HDR」に対応することで、4K HDR / HD SDRの同時ライブ映像制作も可能となる。新社屋設備の検討にあたり、讀賣テレビから、ソニーのIP伝送やシステム開発への取り組みや実績、更には将来的な発展性について高く評価いただいたことも、ご採用の決め手となった。

[主な受注システム機器]

マルチフォーマットスイッチャープロセッサー『XVS-9000』『XVS-7000』

スイッチャーコントロールパネル『ICP-X7000』

マルチフォーマットポータブルカメラ『HDC-4300』

ベースバンドプロセッサーユニット『BPU-4500A』

HDRプロダクションコンバーターユニット『HDRC-4000』

30型4K有機ELマスターモニター『BVM-X300』

◆ソニー：三重テレビ放送株式会社から国内初となるオールIPのHD報道/制作スタジオ対応サブシステムを受注

三重テレビ放送株式会社から、IPライブ伝送技術「ネットワーク・メディア・インターフェース（以下、NMI）」を活用したHDスタジオサブシステムを受注した。三重テレビ放送は報道スタジオと制作スタジオをひとつのサブシステムで制御することで、効率的な運用と設備投資効果の最大化を目指し、今回の採用を決定した。

今回受注したシステムは、複数のスタジオをひとつのサブシステムで制御することができる「リソースシェア」の概念を取り入れたシステム。「リソースシェア」は、コアとなるIPルーティングシステムに複数のスタジオの制作設備を統合し、一つの大きなシステムとして構築することで、設備を共同で運用したり、独立して運用したりするなど、ニーズに応じた運用が可能。

なお、本システムは、映像音声両方のIP化に対応した国内初のオールIP化を実現したライブ制作システムである。システムを集中管理しているIPライブシステムマネージャーは、NMIによる映像のルーティングコントロールとIPオーディオ規格Danteによる音声ルーティングコントロールに対応している。また、今回のシステムでは、従来の「S-BUS」に代わり、ネットワークに対応した新しい制御用プロトコル「NS-BUS」システムを採用しています。「NS-BUS」により、IPライブシステムマネージャー、ルーターリモコン、スイッチャーを連携し、クロスポイント制御やソースネーム管理、タリー制御など、スタジオサブシステムにおいて必須となる機能を提供する。

[主な受注システム機器]

IPライブシステムマネージャー『PWS-110NM1』

NS-BUSコントロールパネル『MKS-R3210/1620/1630』

シグナルプロセッシングユニット『NXL-FR316』

SDI-IPコンバーターボード『NXLK-IP40F/1』

IP対応システムカメラ『HDC-2400/HDCU-3100』

IP 対応マルチフォーマットプロダクションスイッチャー『XVS-6000』

ソニーのIPライブ制作システムは、インフラ部にCOTS(commercial-off-the-shelf, 商用汎用品の意)のネットワークスイッチを採用し、規模に応じた最適な構成でシステムを構築できる。今回は、ファーウェイテクノロジーズのイーサネットスイッチにてHDの128×128マトリクススイッチャー機能を提供している。また、イーサネットスイッチの追加によりHDの256×256、あるいは4Kの64×64としても拡張可能なスケーラビリティとコストパフォーマンスを実現する。

◆ソニー：「Ginza Sony Park」、8月9日（木）に開園

ソニーは、2017年3月末に営業を終了した東京・銀座のソニービルをリニューアルし、2018年8月9日（木）にGinza Sony Park（銀座ソニーパーク）として開園する。

ソニービルが完成した1966年から「銀座の庭」として続いた、数寄屋橋交差点に面した公共スペース（ソニースクエア）をさらに拡大し、変わり続ける実験的な「公園」をコンセプトとして運営する。東京に国内外から一層多くの人が集まり賑わう2020年秋までの期間、銀座の街にビルを建てるのではなくあえて公園をつくり、来訪者に感動や驚き、ソニーのエネルギーを感じられる、遊び心あふれる場を創造するという。

Ginza Sony Parkは、約707平米のフラットな地上部と、地下4層の「ローワーパーク（Lower Park）」で構成された、旧ソニービルの特徴的な構造は残しつつ、地下に吹き抜けがあるオープンな垂直立体公園。「変わり続ける公園」として、実験的な試みをする店舗やイベントを個性豊かなパートナーとともに展開する。ソニーやパークをテーマとした数々の体験型イベントやライブなどを開催する予定。

また、EDIUS 9.2のリリースにあわせて、クラウドへの対応を可能にするフローティングライセンス版を用意した。放送局やプロダクションに向けて、短期利用、広域連携、稼働率に応じたスケールアップダウンといった新たなソリューションを提供する。

EDIUS 9のユーザーには、9.2へのマイナーアップデートが無償で提供される。

◆キャノン：ラグビー日本代表戦で8K映像の伝送実験に成功 臨場感のあるパブリックビューイングの実現への取り組みを加速

キャノンは、2018年6月9日（土）に大分銀行ドーム（大分県大分市）行われた「リポビタンDチャレンジカップ2018」のラグビー日本代表対イタリア代表の試合において、キャノンの入出力機器を用いた8K映像の伝送実験に成功した。実験では、キャノンが開発した8Kカメラ・レンズで撮影したライブ映像を衛星伝送し、キャノン本社（東京都大田区）で8K/HDRディスプレイおよび4K/HDRプロジェ

クター4台を用いて8K上映することに成功した。入出力ともにキャノンの4K、8K機器を用いることで、広いダイナミックレンジと広色域の表現豊かな映像の撮影、および離れた場所で臨場感あふれるライブ映像の視聴を実現した。また、従来の8K映像の伝送は、8K専用のエンコーダー・デコーダーを使い圧縮した映像信号を光専用回線などで伝送していたが、今回の実験ではパートナー各社の協力の下、既存の4Kエンコーダー・デコーダー4台セットで圧縮した映像信号を衛星回線で伝送した。現行の4K機材も活用した8K映像伝送の実現により、今後、スポーツイベントの多拠点でのパブリックビューイングなどにおける8K画質で臨場感に優れた映像の利用シーンの拡大が期待できる。キャノンは現在、さまざまな視点や角度からの競技観戦を可能とする「自由視点映像生成システム」や、視野を覆う大画面に高精細な映像を映し出すことでスタジアムにいるかのような臨場感を提供する「映像空間ソリューション」などの開発にも取り組んでいる。今後も、臨場感・没入感を体感できる映像技術の開発を通じ、「ラグビーワールドカップ2019TM日本大会」をはじめとしたさまざまなスポーツ観戦の魅力の向上に貢献していく。



8K映像の伝送実験フロー（イメージ）・実験実験の様子

◆ブラックマジックデザイン：株式会社アップサイド、ポストプロ設備をBlackmagicの12G-SDI製品でリニューアル



Blackmagic Designは、株式会社アップサイドがスタジオのリニューアルにあたり、Blackmagic Designの12G-SDIテクノロジーを搭載した製品を数多く導入したことを発表した。導入された製品の中には、DaVinci Resolve Mini Panel、DaVinci Resolve Micro Panel、Teranex Express、DeckLink 4K Extreme 12G、Smart Videohub 12G 40x40、Videohub Smart Controlが含まれる。

株式会社アップサイドは、2012年に設立したポストプロダクションである。同社は、主にドラマや短編映画の編集およびグレーディングの映像制作を行っている。同社は、撮影部および照明部があり、撮影からポストプロダクションとしてのすべてのワークフローを行っている。年々増える4K60pの映像での納品に対応すべく、HDスタジオから昨年9月に4K60pにも対応できるスタジオにリニューアルをした。MA室が3部屋、編集室が7部屋、そしてグレーディング室が1部屋となっている。マシンルームや編集室、グレーディング室には12G-SDIを中心とした数多くのBlackmagic製品が導入されている。「グレーディング室には、以前からDaVinci Resolve Advanced Panelを導入していました。今回のリニューアルにあたり、DaVinci Resolve StudioとMini Panelを各オンライン室に導入したことにより、オンライン編集時にも色の微調整が行えるようになりました。そのため、グレーディング室に戻す手間が省け、時間の効率化につながりました。グレーディング室を中心にカラーグレーディングを行っています。それ以外に、エフェクトをかける作業などを編集室のDaVinci Resolve Studioを使用し並行して作業を進めることもあります。一つのプロジェクトを同時進行できるので大変スムーズです。また、Micro Panelは簡単に持ち運ぶことができるので、撮影現場でも使用する場合があります。」とポストプロ部部長の来栖和成氏は話す。Blackmagicの12G製品を中心にマシンルームを構築したことにより配線が楽になりシンプルに接続をすることができるようになったという。グレーディング室には4KとHDのモニターがあり、両方のモニターを使用するために、Teranex Expressで4KからHDにダウンコンバートして作業を行っている。オンライン編集室も同じ用途で使用されている。マシンルームにはSmart Videohub 40×40が2台、HD専用機と4K専用機として導入されている。そのSmart Videohub 40×40が核となり編集室、グレーディング室に設置されたVideohub Smart Controlで入出力の切り替えをしている。そして、編集室やマシンルームのあらゆるマシンの入出力にDeckLink 4K Extreme 12Gが多数導入されている。「今回マシンルームを構築するにあたって、12Gに対応している製品が多く揃っている、Blackmagicの製品を選ぶ以外の選択肢はありませんでした。5年前から導入しているBlackmagic製品が安定して運用できていたため、信頼性もありました。また、安価に購入できるだけでなくどの製品もとてもパフォーマンスが素晴らしいです。」と同氏は結んだ。

◆朋栄：Dejero社のCellSatソリューションが英ロイヤルウェディング中継で活用

株式会社朋栄が国内総販売代理店として活動している、カナダDejero Labs Inc.社は、衛星通信会社のIntelsat社と協力して、カナダのメディア&コンテンツ会社Corus Entertainment傘下のGlobal NewsとEntertainment Tonight Canada(以下、ET Canada)が5月19日に行った英国ハリー王子とメーガン・マークル妃のロイヤルウェディング中継に対し、配信を確実にするためのグローバル回線を提供したと発表した。この中継により、テレビやインターネットを通じてロイヤルウェディングの高品質なライブ中継を楽しんだビュー

ワーは、300万人以上となった。

Dejero創業者であるBogdan Frusina氏は今回の取り組みの背景について、次のように話した。「ロイヤルウェディングのような重要なイベントの中継を計画する際、Video over IPワークフローのために信頼性の高い接続環境を確保することは、放送事業者の技術プロデューサーにとって最重要事項です。放送事業者は、ライブ映像が欠落なしに確実に配信されるために、非常に高い信頼性を必要としています。」

今回のウェディング会場となったウィンザー城のようなケースでは、大勢の人により携帯接続の混雑を引き起こす可能性が高く、加えて、光ファイバーの準備が難しい環境でもあった。携帯通信と衛星通信の混在接続ソリューションDejero CellSatにより、放送事業者に対して信頼性の高いライブ配信環境を提供することができた。

Global News社ネットワークリソース担当マネージャーのMark Blanchard氏は、「ロイヤルウェディングのような注目を集めるイベントでは、時間とリソースは極めて制限されます。このような現場では、私たちのクルーは、技術的な問題を心配することなく、すばやく簡単に仕事を行う必要があります。」と話し、今回のソリューションについて「携帯通信と衛星通信を併用したCellSatでネットワークにアクセスすることで、高品質な配信を提供するための強固で信頼性の高い接続環境を確立できました。CellSatを使用して携帯通信と衛星通信を併用することで、それぞれの伝送技術の強みを活かし、ストレスや技術的な問題はほぼ無くなり、ロイヤルウェディングという特別な報道を成し遂げることができました。Dejero社とIntelsat社のおかげで、我々のイベント報道は一流のものとなりました。」と述べている。

Dejero社のCellSatソリューションは、複数の携帯電話会社の携帯接続と、Intelsat社のKuバンドIP衛星接続とを組み合わせたが、必要に応じた帯域幅を提供することで、優れた画質を確実に提供する。Intelsat社のメディア担当副社長兼ゼネラルマネージャーであるRob Cerbone氏は、CellSatソリューションについて、次のように話している。「ロイヤルウェディングでの中継は、CellSatのようなソリューションがなぜ世界中の放送事業者が必要とされるのかを示す最適な例となりました。CellSatは、携帯通信と衛星通信をシームレスにブレンドさせることで、放送局が歴史的な瞬間を捉え、目のレポートに集中することができるようになります。」

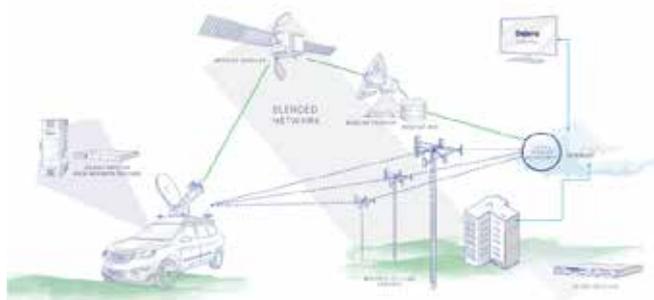
Global Newsは、結婚式当日、結婚式の詳細を幅広く報道し、計7時間の現地取材映像を視聴者に向け配信した。

ET CanadaのCheryl Hickey氏とSangita Patel氏は、イベント前の準備期間とイベント後に、英国よりスペシャルレポートを配信。結婚式の週には路上での取材を実施した。また、グローバル賞を受賞している主要ニュース番組のキャスターDawna Friesen氏による番組「Global National」は、英国ウィンザーから毎晩放送された。

Corus Entertainmentによると、結婚式当日の午前5時半から午前11時まで(カナダ東部時間)の数値データを分析したところ、Globalの報道のビューワーは434,000人になった(5月25日現在)。Global Newsのオンライン中継では、300万回の視聴を獲得した。YouTubeでは、5月24日現在、Global NewsとET Canadaのロイヤルウェディングコンテンツには600万人を超えるユニークビューワーがあり、式典映像だけでも180万回の視聴を超える再生があっ

た。また、Globalnews.ca では、ロイヤルウェディングのコンテンツについて 435 万回ものページビューがあり、同社のFacebook ビデオでは223 万回の視聴を記録した。

衛星技術と携帯技術の併用は、信頼性、品質、冗長性を提供し、放送事業者が現場に出向くために必要な、優れた接続性があることを確信することができ、取材場所を問わず、高いコストパフォーマンスで、何百万人もの人々にコンテンツを配信するための環境を提供する。昨年 8 月に北米で発売されたCellSat は、今年 4 月のNAB Show に初出展し、Connect カテゴリーでIABM Broadcast and Media(BaM) 賞を受賞した。2018 年後半にヨーロッパでも発表を予定している。



◆朋栄：株式会社朋栄エレテックス 社名変更

株式会社朋栄の100% 子会社で、放送・映像システムの開発・製造・販売をしている 株式会社朋栄YEM エレテックスは、2018 年 6 月20 日(水)に社名変更をし、株式会社朋栄エレテックスとなった。

新社名：株式会社朋栄エレテックス

新社名(英文)：FOR-A ELETEX Co., Ltd.

Web サイト：www.f-eletex.co.jp

株式会社朋栄エレテックスの代表取締役社長は引き続き寺嶋秀司が務め、本社所在地ならびに各事業所所在地、連絡先も変更ない。

本社 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-8-1

大阪事業所 〒530-0055 大阪府大阪市北区野崎町9-8 永楽ニッセイビル3F

佐倉事業所 〒285-8580 千葉県佐倉市大作2-3-3 連絡先Tel. 03-3446-3497 (代)

◆ジャパンマテリアル：VNS社 4K/60P 入力 マルチディスプレイコントローラー GeoBox G408 を発売

ジャパンマテリアル株式会社は、台湾VNS社のマルチディスプレイコントローラー『GeoBox G408』を6月12日(火)より発売した。

HDMI 出力端子を搭載したPCやサイネージプレイヤーなどから出力された4K/60P迄の映像を複数のHDMI表示機器にまたいで分割表示することができる。PCやサイネージプレイヤーなどに一切負荷をかけることなく運用可能。HDMI規格に準拠した信号を出力できるソース機器、且つHDMI入力端子を搭載した表示機器であれば、機種を問わずマルチスクリーンを実現できる。

●2系統の4K/60P入力を同時出力

4K映像コンテンツを同時に2系統入力し、それぞれマルチスクリーンを構築できる。

●拡大/縮小表示

●専用ソフトウェア UHD Wall Manager

専用アプリケーションソフト「UHD Wall Manager」をインストールしたパソコンからUSBまたはネットワーク経由で、本機の各種設定・リポート・IN/OUTのリアルタイムステータス監視、設定値の保存・呼び出し、ファームウェアのアップデートを行うことが可能。

◆IDK：デジタルマトリクススイッチャに4K@60、HDCP 2.2 対応モデルを投入



株式会社アイ・ディ・ケイは、中央監視システム・官公庁・企業・文教市場に豊富な導入実績をもつデジタルマトリクススイッチャFDXシリーズに、フルスペック4Kに対応したFDX-12UHDおよびFDX-32UHDを投入。販売を開始した。

デジタルマトリクススイッチャFDX-UHDシリーズは、入出力系統数を4系統単位で構成できるスロットモジュール式のスイッチャ。解像度4K@60、HDCP 2.2に対応しており、FDX-12UHDは最大12入力12出力、FDX-32UHDは最大32入力32出力に対応したモデル。スロットボードはHDMI/DVIに対応した4Kデジタル入出力ボードのほか、デジタルビデオ信号の長距離延長に対応した4KHDBaseT入出力ボードをラインアップ。デジタルビデオ延長用の送受信器を本体に実装することにより、システムラック内の機材をシンプルに構成することができ、システムの信頼性向上にも大きく貢献する。本スイッチャはHDCPに対応しており、テレビチューナーやブルーレイディスクプレーヤーなどの著作権保護された映像を入力することができる。また、外部からの制御用通信ポートとしてRS-232CとLANを装備しており、各種設定の遠隔操作が可能。

◆主な特長◆

■映像

- ・最大解像度 4K@60 (4:4:4)
- ・HDCP 1.4 / 2.2 対応
- ・ケーブル最大距離 (4K デジタル入出力スロットボード)
 - 1080p@60 : 30 m
 - 4K@60 : 12 m (18 Gbps 高速伝送対応ケーブル使用時)
- ・Cat6 ケーブルで最大100 m 延長可能
- ・アンチストーム® 機能
- ・HDR 対応
- ・3D 対応
- ・x.v.Color 対応
- ・入力4系統、出力4系統単位で入出力数のカスタマイズが可能

■制御入力

- ・RS-232C、LAN

■ その他

- ・EDID エミュレート機能 (コピー機能付)
- ・映像音声非連動切替対応
 - FDX-12UHD : MAU-1616 (別売) 接続時
 - FDX-32UHD : MAU-3232 (別売) 接続時
- ・FDX-12UHD : 入出力スロットボード、CPU スロットボードはラックから外さず交換可能
- ・FDX-32UHD : 入出力スロットボード、CPU スロットボード、ファンユニットはラックから外さず交換可能
- ・アラーム出力機能 (電源監視、ファン監視、内部温度監視)
- ・ヘルスチェック機能 (電源電圧、入出力スロットボード、冷却ファン、内部温度の監視対象の状況を表示) など

◆KPI : GODOX V860 II S/F ならびに X 1TF 販売開始

株式会社ケンコープロフェッショナルイメージングはGODOXのTTLカメラフラッシュとしてGN60(200mm・ISO100)の光量をもつV860IIシリーズにS(ソニー用)ならびにF(フジフィルム用)を追加した。またワイヤレストリガーのX1TFにF(フジフィルム用)を追加する。



■製品特徴

V860 II S/F: リチウムイオンバッテリーによる1.5秒チャージ、フルで650回の発光が特徴のTTLカメラフラッシュ。Sはソニー用、Fはフジフィルム用。GODOX 2.4GHz ワイヤレスX1システムに対応する送受信機能を内蔵。カメラ側にX1もしくはX Proなど使用することでワイヤレスでのTTLコントロールが可能。また、カメラ上にV860 IIを取りつけければ、X1フラッシュシステムに対応したほかのオフカメラフラッシュをTTLコントロールすることも可能。

X1TF: 2.4GHz z帯を使用する無線式のラジオリガーX1シリーズにフジフィルム用送信機が追加された。フジフィルムのカメラに装着してAD200、AD360II、AD600をTTLで調光可能。制御可能なグループは最大5グループ。1台の送信機で複数のフラッシュ同調が可能で、最大100mまでの距離で使用可能。

■製品名・JANコード・価格(税別)

V860IIS ソニー用TTLカメラフラッシュ

4961360035216 29,800円

V860IIF フジフィルム用TTLカメラフラッシュ

4961360035223 29,800円

X1TFJ フジフィルム用フラッシュトリガー

4961360035230 8,300円

◆ティアック : DR-10 シリーズに V2.00 が登場

MP3 フォーマット対応、トータルパフォーマンス向上など、より安心できる録音をサポート

ティアック株式会社は、DR-10 シリーズの新機能を追加したファ

ムウェア V2.00 を本日より無償ダウンロードを開始した。

【V2.00の主な機能】

- WAV(BWF) に加え、MP3 での録音にも対応(128kbps、192kbpsより選択可能)
- レベルメーター表示(インプットモニター時に加え、録音中、再生中にも表示を追加)
- デュアルレコーディング機能のレベル選択を追加(-6dBのみから、-12dBを追加)
- POLY ファイルのデュアルレコーディングが可能
- トータルパフォーマンスを向上

◆オタリテック: Ehrlund 社 EHR-M スタジオ・コンデンサー・マイクロフォン販売開始

オタリテックはスウェーデン Ehrlund 社のスタジオ・コンデンサー・マイクロフォン「EHR-M」の出荷を2018年6月7日より開始する。「EHR-M」は Ehrlund 社の独自技術であるトライアングル・カプセル・メンブレン(三角形型振動版)を搭載しておりトランジェントの良いクリアな音質とスピード感のある低域が特徴のオリジナリティのあるサウンドを特徴としたスタジオ・マイクロフォン。



【仕様】

タイプ: Ehrlund 特許「トライアングル・カプセル・メンブレン」コンデンサー・マイクロフォン

指向特性: トゥルー・カーディオイド

周波数範囲: 7~87,000 Hz

インピーダンス: いくつものインピーダンス値にも対応(周波数特性も変わらず)

セルフノイズ(絶対レベル): 7 dBA 以下

最大入力音圧レベル: 125 dB

動作電圧: 48V ファンタム電源, 2.0 mA

コネクター: 標準3ピンXLR

構造: アルミニウム製本体, 高靱性ステンレス鋼製メッシュ

寸法: ø60 mm × 155 mm

重量: 340 g

生産国: スウェーデン

◆オタリテック: PMC 社の 2 ウェイ・アクティブ・リファレンス・モニター「result6」の販売を開始

result6 は PMC のサウンドと ATL テクノロジーを搭載したコンパクトなアクティブモニタースピーカー。高解像度とディテール、正確で伸びた低音、あらゆる音量で一貫した音色バランス、そして広いディスプレイとスイートスポットが特徴。

【仕様】

フィニッシュ色 RAL 7022

クロスオーバー周波数 2 kHz
 寸法 H380 × W199 × D360 mm
 ドライブ・ユニット HF 27 mm ソフトドーム
 LF 170 mm (6.5 インチ), ドームを塗布した天然繊維製
 ATL™ 実効長 1.5 m
 周波数応答 45 Hz ~ 22 kHz
 インピーダンス > 8k Ω
 入力コネクタ バランス式アナログ XLR, ピン 2 = ホット
 重量 8 kg
 チャンネル毎のアンプ・パワー HF 65 Wrms, LF 100 Wrms

◆オタリテック：Roswell Pro Audio 社 コンデンサマイク クロフォン「mini K47」「Delophos」販売開始

mini K47 はヴィンテージマイクを元にした34mm ダイアフラムを採用、重量感のある音質とヴィンテージトーンを再現しながら高い出力を持ち、ホームレコーディングでも扱いやすく同時にプロフェッショナルなエンジニアも満足させられるサウンドを実現。



Delophos は67 スタイルラージダイアフラムを採用、NOS パーツ（デッドストックのヴィンテージパーツ）を使用。FET はローインプット・キャパシタンスのものを採用し、Roswell Pro Audio の自社工場でマニュアルでのバイアス調整を行い、歪みを無くしつつ最大限のシグナルレベルを確保し、ヴィンテージ FET スタジオマイクのサウンドを再現している。

【mini K47 特徴】

K47 スタイル 34 mm シングル・バックプレート
 3 ミクロンの極薄のダイアフラム
 極めてクリーンなトランスレス・サーキット
 オーディオファイル・グレードの高級ポリプロピレン・シングル・コンデンサの採用
 誇張の無いナチュラルなサウンド
 明瞭さの際立つサウンド
 高い感度
 低いセルフノイズと歪

【Delophos 特徴】

明瞭で細やかなディテールを表現するラージ・ダイアフラム・カプセルの採用
 ノイズと歪の少ないトランスフォーマーレス・サーキット
 “True Cardioid”パターンではノイズ・レベルが減少します
 “Omni”パターンでは近接効果を軽減します
 “-10 dB Pad”搭載
 NOS パーツ（New Old Stock：未使用のヴィンテージ・パーツ）を使い、ヴィンテージFET サウンドを再現
 3層構造エナメル塗装のメタリック・フィニッシュ・ボディ

◆ローデ・シュワルツ：6GHz のクラス最高の新しい信号発生器 R&S SMB100B/R&S SMBV100B をリリース



ローデ・シュワルツ・ジャパンは6GHzのクラス最高の新しい信号発生器、アナログRF信号発生器R&S SMB100Bとベクトル信号発生器R&S SMBV100Bの発売開始を発表した。

省スペース設計で汎用性と性能を提供する2つの新しいミッドレンジ信号発生器である、アナログRF信号発生器 R&S SMB100B とベクトル信号発生器R&S SMBV100Bは、卓越したスペクトル純度、前例のない出力パワー、タッチスクリーンによる簡単で直感的な操作性を提供し、同クラスの基準となるモデル。R&S SMB100B および R&S SMBV100Bは、特にRF半導体開発、電気通信、および航空宇宙・防衛向けに最適な信号発生器。

◆ゼンハイザー：スポーツ向けワイヤレスイヤホン CX SPORT In-Ear Wireless を発売開始



スマートフォン対応のスポーツモデルでカナル型マイク付き。汗や水に強く、アウトドアでのスポーツユースに最適。Bluetooth 4.2 無線技術で2つのデバイスとの接続が可能。

■仕様

型式: ダイナミック、カナル型 周波数特性: 17 ~ 21,000 Hz 音圧レベル: 112dB
 質量: 約15g
 無線規格: Bluetooth4.2 サポートプロファイル: A2DP, AVRCP, HSP, HFP コーデック: SBC, AAC, apt-X, apt-X LL 動作時間: 約6時間
 充電時間: 約1.5時間
 JANコード: 4044155237849

■付属品

USB充電ケーブル、チャージングポーチ、イヤアダプターセット(XS,S,M,L)、ケーブルクリップ、イヤフィン(S,M,L)
